

2022・9 vol.48



原町本店
〒975-0003
南相馬市原町区栄町2-83
TEL: 0244-24-2929

いわき店
〒970-8026
いわき市平三倉69-8 第2地産ビル1F
TEL: 0246-85-5298

みなさまこんにちは！いつもお世話になっております！暑い夏も過ぎ(まだ暑いですが...)9月になりました！早いもので、今年も残り三分の一です。9月になると秋単衣になり、着物を楽しむのに良い季節になっていくのでワクワクします。さて、皆様よくご存じの「春の七草」セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロとスラスラ出てきますが「秋の七草」と聞いて、パッと頭に浮かびますか？毎年1月7日に七草粥として食す「春の七草」に比べ、「秋の七草」は、あまり聞く機会がありません。元々は、『万葉集 巻八 秋雑歌』にある山上憶良の歌にある七種が「秋の七草」と呼ばれるようになりました。

秋の野に 咲きたる花を 指折(およびをり)かき数ふれば 七種(ななくさ)の花
萩の花 尾花 葛花 撫子(なでしこ)の花 女郎花(をみなへし) また藤袴 朝貌(あさがお)の花

この歌にある「朝貌」は、私たちがイメージする朝顔ではありません。なぜなら、この歌が詠まれた当時、私たちが知っている現在の朝顔はまだ日本に入ってきていなかったからです。この「朝貌」の花については諸説ありますが、現在は、平安時代に作られた漢和辞典『新撰字鏡(しんせんじきょう)』の「桔梗」の項に「あさがお」とあるため、「桔梗」とされることが多いです。また、「尾花」とはススキの別名です。春の七草と同様に、五・七・五のリズムに乗せて覚えるといいそうです。例えば、ハギ・キキョウ、クズ・フジバカマ、オミナエシ、オバナ・ナデシコなど...
時折吹く風に秋の気配を感じますが、まだまだ暑い日は続きそうですね。今月も張り切っていきましょう！

大好評 < ゑびす足袋 お見立て会 >

8月にいわき店で開催された「ゑびす足袋 お見立て会」大好評でした！県外からは茨城県や栃木県、県内では喜多方市などからのお客様もありました。特に「こたび®」が大変好評で、ほとんどの方がその場で履いてお帰りになりました。

まず最初に、一人ひとり足の測定をして状態を見ます。外反母趾や、巻き爪、足の親指が浮き上がっているなどそれぞれのお悩みなども伺います。大量の足袋の型から、ピッタリの足袋をお選びいたします。



ゑびす足袋6代目代表の白記澄子さん。明るくて親しみやすいお人柄が大好きです。同年代ということもあり、2人でおしゃべりが止まらない(笑)福島は初めてということだったので、福島の自慢の桃を味わっていただきました。

人気の「こたび®」は着物に合わせても、洋服に合わせても足元が華やぎます。カラーバリエーションも豊富で、選ぶのが楽しくなります。日常的に履くことで、足のお悩みも解決！足袋形のサポーターとして大変人気です！



次回は
原町！

ゑびす足袋 お見立て会

原町本店: 9月8日(木)~10日(土) ※最終日は14時まで
ご予約は原町本店0244-24-2929まで！ ※予約優先

いわき店で大好評だった「お見立て会」、次回はいよいよ原町本店で開催します！予約の方優先とさせていただきますので、早めのご予約を！普段お着物を着ないという方も、この機会に足の状態を見ていただきませんか？「こたび®」のお見立てもいたします。ご家族やお友達をお誘いください！もちろん男性のお客様も大歓迎です！！



代表の白記さん来店します！

＜ よろづ屋 きものがたり～琉球絣～ ＞

全国の紬や染めの産地のお話や、きものまつわるあれこれをご紹介するコーナー
第21回目は、日本全国の絣のルーツ琉球絣

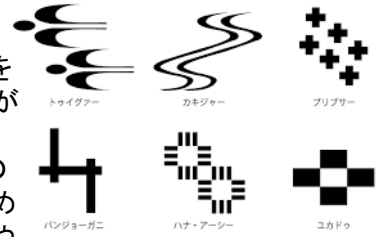
絣柄の中でも、トウイグァー(鳥)は琉球ならではのね



琉球絣(りゅうきゅうかすり)は、沖縄県で織られている織物です。主に絹糸を使用した織物で、草木を原料とした染料のほか化学染料等が使われています。14～15世紀に中国、東南アジアとの貿易が行われたことから琉球王国へ織物技術が入ってきました。琉球絣は、沖縄王府に収める貢納布(こうのうふ)として織られるようになります。貢納布は、首里王府の絵師がつくったデザイン集の御絵図帳(みえずちょう)の図柄を織物に完成させたものです。琉球絣の特徴は、およそ600種にもものぼる多彩な沖縄の自然や動植物を取り入れた図柄です。図柄を活かして織られた反物が中心で、夏季に使用する壁布(かべじょうふ)と言われる織物も生産されています。爽やかで美しい独特の幾何学模様図柄は、琉球王府時代から伝わる御絵図帳の図柄が元です。古来の伝統の図柄に時代の感覚を取り入れて、職人がオリジナル模様を作ってきました。染め上げる際は、図柄をもとに模様部分を1カ所ずつ手括りで締め上げていくという手間のかかる作業によって独特の絣模様を作りあげます。



琉球絣の織りは、緯糸を経糸の間に道具を投げ込んで手作業で織っていくという昔ながらの技法です。日々1～2メートル位ずつを職人が丹念に織り上げていきます。琉球の文化や自然から生まれた伝統柄を散りばめた琉球絣、分業による効率的な生産体制や町をあげての取り組みで全国の伝統的工程織物の中でもトップクラス



の生産量を誇るようになりました。これからも沖縄を代表する織物として人々を魅了してゆくことでしょう。

知っておきたい寸法のこと

せっかくのお誘いの着物、みなさんご自分の寸法はご存知ですか？ 仕立てる際や購入時の参考に、寸法のことをもっと知りましょう。

～その5 袖丈～

今回は袖丈についてです。袖丈は、肩山の延長上の袖の折山である「袖山」から「袖裾」までの長さをいいます。袖丈の目安としては、標準寸法で身長3分の1程度にするとバランスが良いといわれています。それに加えて、着物の格、年齢、身長、好みによって加減をします。着物の袖丈の考え方として、「晴れ着は長め、普段着は短め」と思っておけばよいでしょう。また、年齢に応じて「若い人は長く、年配は短く」とすることが多いです。最近では、身丈の長さを取る方が増えてきているので、一般的に袖丈の長さは1尺3寸(49cm)が標準になってきています。長すぎても動きにくい、短すぎてもバランスが悪いので、背の高い方などは、1尺4寸(53cm)くらいにしても良いでしょう。また、訪問着などの礼装の場合は、普段着とは違い袖丈が長めの方がエレガントに見えます。



今月のおススメ！

コーリンえりどめ
605円(税込)

今回のおススメ商品は、着付の時の優れもの「コーリンえりどめ」です。長襦袢を着用後、着物を合わせた時に衿がずれないようにしっかりと留めておくことができ、綺麗に着ることができます。きものクリップなどでも代用は可能ですが、この「コーリンえりどめ」は、形状が湾曲してあるので、衿カーブに沿ってピッタリと留めることができます。また、衿に手が届かなくてスムーズに留められない！ そんな方でも、幅が広いクリップなので簡単に留めることができます。きものクリップよりも軽くて、ばねがやわらかいので力を入れる必要もありません。着物を挟む部分には柔らかい滑り止めがついているので、着物を傷めたりもしないので安心してお使いいただけます。普段、衿を留めずに着ている方にも、ぜひこの一手間で美しく着こなして欲しいです！



・・・若女将のつづき・・・

今年の夏も暑かった！ ということで、コロナ禍でも今年の夏はいつもと違かった！ 3年ぶりに地元で「相馬野馬追」が開催され、盆踊りや市民の夏祭り、花火大会なども各地区で開催されました。やっぱり夏はお祭りがないと！ 私も今年の夏は、盆踊りやイベントでの司会などであちこちに顔を出させていただきました。もちろん浴衣姿で！ 10年くらいやっている司会のお仕事も、最近は少なくなってしまう寂しく思っていたのですが、今年は思った以上に忙しかったです。一人でやることもありますが、やっぱりいつものコンビ(原町スタッフ新妻さん)だと息もピッタリ。楽しくお仕事させていただきました～

